

SHOW HEY シネマールーム

Data

監督：佐藤祐市
出演：小池徹平 / マイコ / 品川祐 /
田辺誠一 / 池田鉄洋 / 田中
圭 / 中村靖日 / 千葉雅子 /
森本レオ / 北見敏之 / 朝加
真由美 / 須賀貴匡

ブラック会社に勤めてるんだが、
もう俺は限界かもしれない

2009年・日本映画
配給 / アスミック・エース・104分

2009 (平成 21) 年 10 月 8 日鑑賞 | アスミック・エース社内DVD試写

👁️👁️ みどころ

ニッポン国全体がへこむ中での格差の拡大と失業の増大は由々しき問題。かつてもはやされたIT業界も、今はブラック会社が横行？そんな時代状況下、エンタメ性をタププリ含んだ問題提起作が登場！世界一長いタイトル(?)を誇るだけでは無意味。さて、中卒でニート歴8年という主人公の就職は？ブラック会社内で彼はどんな問題提起を？他方、本作のメッセージを、世のニート諸君はどう受けとめる？

今こりゃ、「世界一長い映画のタイトル」のベスト何位？

あなたは世界一長いおまじないの言葉を知ってる？それはジュリー・アンドリュース主演のミュージカル映画『メリー・ポピンズ』(64年)で再三登場した「スーパーカリフラジリスティックエクスピアリドゥーシャス」。すると、世界一長い映画のタイトルは？

ギネスブックを確認したわけではないが、ネットにはそんな情報もしっかり入っている。それによると『ブラック会社に勤めてるんだが、もう俺は限界かもしれない』という本作のタイトルは世界一長い映画のタイトルではないが、さてベスト10の第何位？

格差拡大、景気低迷、失業拡大、なぜこんな社会に？

IT産業が成長産業としてもてはやされていた時代は、ホリエモンこと堀江貴文の凋落とともに終焉？私は郵政民営化をメインとした小泉構造改革の意義を高く評価しているが、その後続いた安倍、福田、麻生の自民党短命内閣はその継承に失敗。その挙げ句、「政権交代」をキーワードとした2009年8月30日の衆議院議員総選挙において、ホントに政権交代が実現することに。そして鳩山由紀夫民主党政権下、亀井静香郵政・金融担当大臣

と原口一博総務大臣は本気で西川善文社長以下役員之首を切り、郵政改革を元に戻そうとしているようだから、かなりヤバい。

そんな中で強調されてきたのが小泉改革における負の遺産としての格差の拡大だ。しかし私の見方では、それは小泉改革の失敗ではなく、竹中平蔵元経済財政担当大臣が言うように「更なる改革」が頓挫したためだ。2007年秋のサブプライムローン問題に端を発した2008年秋の世界的金融危機はアメリカの責任だが、今更責任のなすりつけあいをしても無意味なことは明らか。しかし現実には、景気の低迷と株価の低迷そして所得の減少、失業者の増大など、まさにニッポン国はお先真っ暗？

タイムリーな企画に拍手！

戦時体制でもないのにこんな暗い平成20年代のご時世において、何ともタイムリーな企画が映画として登場した。

主人公はいじめられっ子で、引きこもりをくり返し、高校を中退したニート歴8年の若者マ男こと大根田真男（小池徹平）。何の知識もなくとも大卒の肩書をもつ奴がゴマンといえる中、中卒の青年ではいくらプログラマーの資格を持っていても就職先が見つからないのは当然。今ドキ誰もがそう思うが、そんなマ男の「何としても就職したい」という魂の叫びに心を動かされて（？）即「採用！」と決定したのは、黒井策士社長（森本レオ）が経営するIT会社黒井システム株式会社。さて黒井システム株式会社とは？そして人間の限界とは？何ともタイムリーな企画を実現させた関係者の目のつけどころに拍手！

変な会社には変な社員が

かつて小泉純一郎元総理との蜜月関係を誇示した田中真紀子元外務大臣は中央官僚が支配する外務省を「伏魔殿」と称したが、官僚組織はすべて大同小異？

地方分権に向けて見事な突破力を示している橋下徹大阪府知事は2009年10月8日、知事宛てに不適切なメールを送ったとして、40代の保健所勤務の女性職員に口頭で厳重注意処分を下した。これは一見、自由で風通しのいい府庁を目指す知事の各種発言と矛盾するようだが、私見では橋下知事の言い分どおり、こんな職員に非があるのは当然。

大阪府庁にこんな非常識な職員がいるのと同じように、黒井システム株式会社の社員はマ男が尊敬できる藤田さん（田辺誠一）を除いて変な奴ばかり。そのトップは黒井社長から「よろしくね」とマ男の紹介を受けたリーダーの阿部道大（品川祐）だが、黒井社長が姿を消すや、その態度は急変。もちろん誇張気味だが、あなたの会社にもこんなリーダーがいるのでは？



2009年11月21日、梅田ブルク7 ほかに全国ロードショー
配給：アスミック・エース
(C)2009 ブラック会社限界対策委員会

ブラック会社とは？デスマとは？

本作のプレスシートには社会保険労務士の田北百樹子氏の「ブラック会社とは？」という解説がある。それを読めば「ブラック会社とは黒いことをやっている企業（真っ暗闇で先が見えない）を指すインターネットスラングである」と定義されている。また、そこには勤務時間、給与・手当、人事配置、罰金制度、事務用品の扱いなどブラック会社度に関するさまざまなメルクマールが示されている。黒井システム株式会社は名前からしてもその実態からしても明らかなブラック会社だが、さてその想像を絶する実態とは？リーダーをはじめ、リーダーにベッタリのお調子者井手（池田鉄洋）この2人からいつもいじめられている拳動不審の上原さん（中村靖日）社長の愛人と勘ぐられている経理担当のお局様瀬古（千葉雅子）など個性豊かなキャラたちに囲まれて、マ男はどんな悪戦苦闘を？まずはその実態を知ることが何より大切だ。

ちなみに、あなたは本作に登場する「デスマ」という言葉を知ってる？これはデスマーチ（死の行進）の略語で、不眠不休の苛酷な残業状態が続くことらしい。人間は不眠不休で何日も仕事を続けることなど到底できないから、これは若干誇張された言葉だが、本作を観ているとホントにデスマの実態が・・・。

意外！マイコは変なキャラ向き？

『山のあなた～徳市の恋～』（08年）で清楚なイメージの女優として映画デビューしたのが1985年生まれのマイコ。そのマイコが、竹中直人監督の『山形スクリーム』（09年）でケツタイな先生役を演じたのにはビックリしたが、本作で派遣社員の中西亜矢子を演ずるマイコは？

掃き溜めのような黒井システム株式会社に、なぜこんなまともな派遣社員が？と一瞬誰もが考えるはず。また社内恋愛に発展するとすれば、きっとまとも同士で藤田さんと？と考えるのが当然。ところが意外！マイコ演ずる中西さんもヘンなキャラ？

エンタメ作品？それとも問題提起作？

映画はとことん楽しみを追求するエンタメ作品と、社会的メッセージを伝えようとする問題提起作に分かれる。2008年度日本アカデミー賞で優秀作品賞、優秀監督賞など4部門を受賞した佐藤祐市監督の『キサラギ』（07年）は前者で、その面白さは群を抜いたものだった（『シネマルーム13』61頁参照）。それに比べると、本作は娯楽性と問題提起性の両者を兼ね備えたものだが、逆に「二兎を追うものは一兎も得ず」が心配？

映画冒頭、スクランブル交差点であらゆる意味で限界に達したマ男が倒れこむシーンが登場するが、ここでの問題提起はもちろん限界。しかしスタートから中盤にかけての黒井システム株式会社内における展開は、メッセージ性よりもエンタメ性に重点がある。それは、『戦国自衛隊』（79年）さながらの隊員たちの登場や、『レッドクリフ』（08年）を意識したとしか思えない諸葛孔明、曹操、周瑜の登場などをみれば明らかだ。

本作のメッセージは？問題提起は？

本作のメッセージ性が伝わってくるのは、真正正銘の早稲田大学卒のエリート木村（田中圭）が入社してきたことにより、マ男が早稲田卒業ではなく早稲田に住んでいるだけの中卒であることがバレて落ち込んでしまった時から。つまり、ここでマ男がはじめて藤田と対話するシーンからだ。自分の弱点を相手にさらして本音を語った時、はじめて相手も自分に対して本心を打ち明けてくれるもの。そんな当たり前のことが、マ男と藤田の会話を聞いているとよくわかる。

こんなにすばらしい能力を発揮している藤田さんだって、ニートの時期があったんだ。それを知ったことによって、マ男の心はどう動くの？また、藤田さんから「君は自分で思ってるよりずっと強い人間だ」と励まされたことによって、マ男は立ち直れるの？これが映画の後半入り口のメッセージだ。映画はさらに、藤田の過去を明らかにしたうえラストでは再度マ男と藤田のエールの交換を見せる。

さて、そんなラストで見せる本作の問題提起とは？

2009（平成21）年10月10日記

タイムリーな問題提起に拍手！



「ブラック会社に勤めてるんだが、もう俺は限界かもしれない」
(きょうから梅田ブルク7ほかで公開)



©2009ブラック会社限界対策委員会

「メリー・ボビンス」(1984年)で破天荒な「長いおまじないの言葉」を彷彿とさせる。長いタイトルは一体ナニ？これが今ドキの多くの若者の実感なの？高校中退でも東京都新宿区早稲田に住んでいれば早大生？自分からそう言えは稀歴詐称だが、社長が勝手に誤解するのは先方の勝手？8年間の不登校、引きこもり、ニート

生活に決別すべくプロダクラーの資格を取ったマ男(小池徹也)は必死に「森本レオ」の調解も「難意の反映」と割り切り、晴れて上企業の正社員となったが、そこにはクセ者揃いの社長とデスマーチ不眠不休の苛酷な残業が、日本の法治国家で義務法制も厳格だが、名ばかり店長・サレテ残業など抜け道も多い。17歳

界も残業と休日返上の連続だ。サブプライムローン絡み、田舎金融危機、株相の下落、円高と国際情勢は急変。地方格差の拡大、失業率の増大と日本国の底意は練々、政權交代がバラ色でないことは冬の賞与額を窺えば明白だ。

だがデスマを乗り切り大成を挙げたマ男君は、異例の速さでリーダークリが？エンタメの最高峰「キサラギ」(2007年)の佐藤市監督が描く責任感ゼロのリーダークリ(高川裕)やお隣不審(中西靖彦)、業勲不審(中西靖彦)、業勲不審(中西靖彦)、業勲不審(中西靖彦)たちをまとめるで動物園？人格者の藤田(田辺誠一)や美人派遣社員中西(マイコ)も一見さんですが、どこかへん。本物の早大生社員(田中圭)を含めてマ男君は三国志の孔明・曹操・周瑜に例えるが、それもへん？井雄士や会社士も就職難、公務員志望者激減の昨々、派遣

切り、肉定取り消し、人優例減は深刻だ。

働きたいのにせ働さぬ場がある。それを嘆いてもダメ大切なのは、人はそして自分は一「なぜ働くのか」と問いつけること。ずるな本作は「沈まぬ太陽」(08年)以上の社会問題提議作？その理解できれば、きっとあなただけは大丈夫だ。